



かわせみ通信

10月号
2017年10月
Vol.98

発行所 株式会社 東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)
TEL.059-332-5122(代) http://www.tokai-techno.co.jp

短所は長所の裏返し？ ～安心はタダではないのだ～

日本学術会議会員、農学系の大学長及び学部長、国立試験研究機関の長などの現職および経験者を会員とする日本農学アカデミーが、先月「遺伝子組換え食品表示改訂に関する要望書」を消費者庁長官へ手渡したと発表した。消費者庁が4月に遺伝子組換え(GM)作物を使った食品について、表示の線引きが「分かりにくい」と指摘されていた現行の制度の見直しを目的とした有識者検討会を立ち上げると発表したことを受けてのものだ。要望では、「遺伝子組換え不使用表示」は5%までの意図しない混入を容認する現行制度を改めて、不使用表示は遺伝子組換え成分がゼロの食品に限定することに力点を置いている。現行の制度ではいたずらにGM作物がネガティブなものとして扱われかねないとしているのだ。一般的に“食の安全”とは健康に有害な作用を及ぼすかどうかを

科学的実証に基づいて客観的に評価することであり、“食の安心”とは消費者それぞれが感じる主観的評価や感情的好き嫌いの評価とされるが、ことGM作物においては安心の壁が商業栽培20周年を迎えてもまだ根強いことを示している。病気に強く害虫を寄せ付けない遺伝子を組み込んだ作物栽培や殺虫剤や殺菌剤を使用する作



こうした技術進歩も人類には必要だが

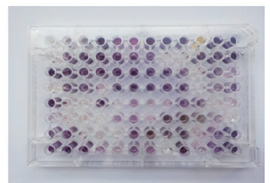
物栽培、さらに言えば植物に放射線(x線、γ線など)を照射することにより、遺伝子を変化させたり壊したりすることで突然変異を生じさせ、その中から有用な形質を持つものを選抜する品種改良を経た作物栽培無しには今の世界の食を満たすことはできない。だからこそ逆に表示を厳格化することは、非GM・無農薬有機栽培にも未来を創る。GM技術は生産性の高い農業を日本では想像できないぐらい大規模に行うに必須だが、GPS付き無人超大型トラクターなど不要な日本の小規模な農業でこそ非GM・無農薬有機栽培が活路となる。ただし、このプレミアムな作物にはハラル食品と同様の公正厳格な認証、手間に見合う高価格が条件だ。Made in Japanの名に恥じない作物を世界に出していく機会創造に、今回の表示見直しが重要な一歩になることを期待したい。

コーヒー生産大国ベトナムのコーヒー農園を訪れて

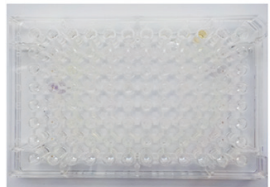
コーヒー豆といえばブラジルをイメージしますが、ベトナムはブラジルに次ぐ世界第2位の生産量で、全体の約2割を占めるコーヒー生産大国です。縁あって訪れたベトナムのコーヒー農園の収穫量は、一般的な収量の倍以上！一般的に良質な土壌には、化学的側面、物理的側面などいくつかの判断項目がありますが、「土壌微生物の活性状態」も収量や病害虫への防疫、気候変動対応力などに関わっているとされています。この収量の差は何なのか？土壌中の微生物活性に注目し、これを簡易的に評価できるBIOLOGプレートを使って、現地でベトナムのコーヒー農園の土壌を評価してみました。BIOLOGプレートの各ウエルには異なる栄養源が入っており、紫色に発色したウエルの分布が多いほど多様な微生物・菌類が生息していること、色が濃いほど生息数が多いこと、すなわち土壌中の微生物活性が高いことを示します。ベトナムコーヒー農園の土壌と、比較のために超不作だった他の地域の畑の土壌を調べた結果は左の写真のとおりで、一目瞭然ですね。やはり、この農園の土壌は微生物活性が高く、良質と言える土壌のようです。土の微生物たちがベトナムコーヒー生産を支えている!? のかもしれませんね。



訪れたコーヒー農園



コーヒー農園



不作だった畑の土壌

測ってみよう! 探検隊 Vol.61 SNS では大絶賛…でもどうなの?

ブログ、Twitter、Facebook、LINE、Instagram などなど、SNS (ソーシャルネットワークサービス) は、現代ではコミュニケーションツールであると同時に情報収集ツールとして定着していますが、時にステマと呼ばれる誘導型の販売手法として使われたりデマが流れたり、情報の真偽確認は個人が責任を持って行う必要があります。最近こうした SNS で効果があったと報告されている獣害忌避剤をダメ元で購入して畑に使ってみたところ、楽しみで栽培していたキャッサバはイノシシにやられて見事全滅。遅まきながらこの忌避剤の原料となっている“〇〇〇”と“効果”で論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報を検索できる CINI (NII 学術情報ナビゲータ) で検索したところ、検索結果は表の通りゼロ。論文数が多いことは良くも悪くも検証の価値があることの目安にはなりそうです。やはり情報を鵜呑みにしないリテラシーが必要ですね。

検索ワード	ヒット数
〇〇〇効果	0
水素水 抗酸化力	1
EM菌 効果	2
EMS 筋肉	14
マイナスイオン 健康	35
LED 省電力	58

2017年9月末現在



全滅したキャッサバ畑

社員プチコラム

千賀 紀彦 (営業本部 開発営業部 東京開発グループ)

早いもので東京に来て5年目を迎える。四日市に居た時と何が変わったかを考えると、歩くスピードと量が変わり、PC入りの重たい鞆を持ってひたすら歩く、周りも歩くので自分も歩く、歩いて営業先を回る。気がつけばスマホの万歩計が一万歩を超える日がざらにある。多分正確ではないと思うが、気持ちの上での達成感と健康になった勘違いが起こる。そして、車を運転することが無いので、帰り道には晩ごはんのついでにビールを飲んでしまい、そのまま帰って寝てしまう。これの繰り返しで売上を上げずに体重を上げてしまっている反省の日々。。



編集後記

毎月かわせみ通信を読んでいただいているお客様は、今月の内容がいつもと違うと感じられるかもしれませんね。そのくらい農業色豊かな記事となっております。目に見えない物質を測る「分析業」ではありますが、環境分野だけではなく、それは農業分野でも通じるものがあり、いろいろな分野に積極的に関わっております。(みっちー)

